

12月12日は、「十二国記」の日

# これは、あなたの物語。

■初めて読んだ時、私の年齢はちょうど、「囀南の翼」の主人公・珠晶と同じ12歳。自分ならどうするだろうと、とても感情移入しました。今、読むと全然違う物語を感じます。読み手自身に自問自答させるいい余白があるのが十二国記の魅力(29歳・女性)■人生の指針のような小説。十二の国で思いつく人たちの言動が、今生きてる自分の糧になるのが不思議で、そしてとても素敵な事だと気付いた物語です(22歳・女性)■海外仕事の時には必ず「囀南の翼」を持参する。慣れない環境で色々凹んでも「珠晶も歩みを止めてない」と半ば気持ちをシクシクさせて困難に挑みます(45歳・女性)■「出来ない理由を並べる暇があるならまずやってみろ」という珠晶の生き様に学ばせて頂きました(38歳・女性)■「そんなこと、あたしにできるはず、ないじゃない」珠晶の「心の叫び」が胸に突き刺さる。自分にはできないことをわかった上で、国の現状を嘆くばかりの大人たちに気高い覚悟を見せつける。珠晶ー!!! (48歳・男性)■上司にしたいキャラ(社長ではなく直属の上司)第一位は珠晶! 理由: 地味な仕事でも真面目に働く香をしっかり評価するから(36歳・女性)■「あたしがこれを食べたら、困ってる人のところと同じものが降ってくる? 食べられない人が可哀想だって言うんなら、それこそ、このまま持って行ってあげればいいじゃない」思想だけの慈悲では何の解決にもならず、足しにもならないって痛感した一言(38歳・女性)■産休、育休中に十二国記を読み始めました。そして、今まで何度も読み返しました。生まれた娘は、今年18歳の高校三年生です。今は娘と二人で十二国記を読んでいます(47歳・女性)■「人は、自分という国を統べる王となれ」という言葉に深く感銘を受けました。人は、地位に頭をたれるのじゃなく、その人がなしたことに畏敬を感じて自然に頭をたれるものという言葉にも通じるものがあり、恥ずかしながら60を越えようかという我が身を振り返って恥じ入るばかりです。しかし、余命をかけて我が国(自分)を少しでも豊かなものにしていきたい(62歳・男性)■読んでた頃が学生で悩んでいた時期と重なって、珠晶のように志高くいたいと思わせてくれた(26歳・女性)■会社の研修で全国から集まった同僚たちの中に「十二国記」ファンがいて、皆で読書会を開いた。意外な共通点で新たな友人ができたことに感謝(33歳・男性)■人生の指針になったのはやはり珠晶の生き方。己の目で見て、頭と心で考え、その足で動き、そしてまた考える。背は泰山の如く、翼は垂天の雲の如し。シビれる(38歳・女性)■名ゼリア多すぎる。珠晶の行動力と頭脳があれば、そりゃ国は安泰だよなーって(28歳・女性)■十二国記は、まさに「あなたの物語」。自分の目指す物は何か、何を最優先とすべきか、矜持を問われる物語です。自分と真摯に向き合う事は難しいことですが、考えるきっかけを私に与えてくれた大切な作品です(50歳・女性)



大人が行かないのなら、あたしが行くわ。

## 小野不由美 完全版 十二国記

シリーズ累計1200万部突破!



- 0 『魔性の子』
  - 1 『月の影 影の海』上・下
  - 2 『風の家 迷宮の岸』
  - 3 『東の海神 西の滄海』
  - 4 『風の万里 黎明の空』上・下
  - 5 『不緒の鳥』(短編集)
  - 6 『囀南の翼』
  - 7 『華宵の幽夢』(短編集)
  - 8 『黄昏の岸 暁の天』
- 新作長編『白銀の墟 玄の月』全4冊

私たちの読みたかった物語がここにある。この長大なシリーズを貫くのは、今がどんなに辛くても、いつかはきっと夜が明ける。それを信じよう——という希望なのだ。嫉妬があり、憎しみがあり、生があり、死がある。意地があり、誇りがあり、絶望があり、歓喜がある。そういう感情の粒子が、あちこちから立ち上がってくる。私たちの読みたかった物語がここにある。

文藝評論家 北上次郎  
「読」12月号より



新潮文庫